COVID-19 集団感染発生時における回復期リハビリテーション病棟の事業継続に向けた取り組み～ リハビリテーションスタッフによる看護要員確保～

石森 卓矢[1)]　鈴木 佳代子[1)]　水谷 圭吾[1)]　元井 光夫[1)]　腰塚 洋介[1)]
樽見 桂子[2)]　髙橋 陽子[2)]　風晴 俊之[3)]　三ツ倉 裕子[4)]　江熊 広海[4)]
美原 盤[5)]

1)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 リハビリテーション部
2)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 看護部
3)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 事務部
4)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 感染対策室
5)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[はじめに]災害等の緊急時において、病院は通常診療の継続に加え、緊急事態への対応も求められる。今回、当院回復期リハビリテーション(リハ)病棟(50 床、看護師 23 名、看護助手 9 名、リハスタッフ 34 名)において COVID-19 集団感染が発生し、その際の看護要員確保に向けたリハスタッフの取り組みが有用であったため報告する。

[集団感染発生の概要]X 日、COVID-19 抗原検査陽性となった看護師 1 名が発生。X+1 日、看護助手 1 名、患者 7 名が同検査で陽性。X+9 日までに合計で患者 17 名、看護師 6 名、看護助手 2 名、リハスタッフ 2 名の感染者が発生した。

[リハスタッフの対応]X+1 日より当該病棟全患者のリハを中止した。X+2 日、看護人員が不足したため、看護要員としてリハスタッフを早出(7:30～16:30 勤務)、遅出(10:30～19:30 勤務)3 名ずつ配置し、看護補助業務を開始した。看護補助業務としては、コール対応、食事・トイレ介助、清拭、廃棄物処理などを行った。その他のリハスタッフは、他病棟でのリハ業務や当該病棟の患者へ自主練習プログラムを作成した。X+5 日、出勤できる看護師数が少なくなり、COVID-19 陽性患者への対応が逼迫したため、日勤 4 名のリハスタッフを追加した。X+6 日、看護師のさらなる人員不足に伴い、早出、遅出 4 名、日勤 6 名に増員した。X+10 日よりリハ再開したが、看護補助業務は X+17 日まで継続した。結果、入院患者の食事、排泄などの日常生活活動、医療管理を継続することができた。

[考察]リハは生命に直結しない医療行為であり、緊急事態においての優先度は高くない。全体最適の視点から他に優先されるべき行為にリハスタッフを充当させたことは、

事業継続に有用であった。さらに、看護要員の確保することは、COVID-19 陽性者に対し十分な看護・ケアを提供することができた。事業継続計画の策定は部署ごとではなく、部署横断的な考えのもとに行われることが望まれ、リハスタッフの活用は災害時の病院機能を支える上で検討されるべきだと思われた。